



ガーナの小学生と給食メニュー交換

堀江 新子

山口県立防府養護学校

- ◆実践教科 英語
- ◆時間数 5時間
- ◆対象学年 1、2、3年
- ◆対象人数 生徒8名、教員8名

カリキュラム

■実践の目的

- ・ガーナの小学校の給食を通して、ガーナの食文化を知る。
- ・生徒同士の交流を通して、言語活動を豊富にする。

ここが素晴らしい！

「給食メニュー交換」というテーマで双方向の交流を行うことで、発信のための自己の振り返りを誘導し、ガーナを通しての自己表現を可能にしました。

- ・外国語を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ：ガーナを知る ねらい：導入のためガーナを知り興味を持たせる	<ul style="list-style-type: none">・地球儀でガーナを探す・白地図でガーナの位置を確認する・ガーナの産業を知る	地球儀 白地図 世界地図
2限目 テーマ：ガーナの文化を知る ねらい：色、模様の多様性と独自性を知る	<ul style="list-style-type: none">・ケンテ柄を描く・ビーズを使ってブレスレットを作る	ケンテ柄のバッグ、布 ビーズ 写真
3限目 テーマ：ガーナの子どもたち ねらい：子どもたちも家族の一員として重要な働き手であることを知る	<ul style="list-style-type: none">・ガーナの英語の教科書を使って、子どもたちの生活を理解する・ショッピングバスケットを頭に乗せて運ぶ。	ガーナの英語の教科書 ショッピングバスケット
4限目 テーマ：ガーナの給食 ねらい：ガーナの食文化を知る	<ul style="list-style-type: none">・給食献立表を英語にする・メールでガーナに送る	給食献立表
5限目 テーマ：ガーナの給食 ねらい：ガーナの小学校の生徒と交流する	<ul style="list-style-type: none">・依頼文、お礼文を考える・ガーナの給食を推測し、質問を考える。	ガーナの給食メニュー ガーナの食品の写真

授業の詳細

2 時限目 ガーナの文化を知る

ガーナのケンテ柄、ビーズを作る



ガーナから持って帰ったビーズを使って、ブレスレットを作りました。生徒A：『仲良しのしるしだよ！』



『頭に巻くと、たちまちガーナ人に変身できます！』
児童A：『おかあさんが、お風呂に入るときみたい！』

3
時限目

ガーナの子どもたち



出来上がった籠を市場まで、頭に乗せて運んでいきます。子どもも働き手の一人として、役立っています。



体育館でショッピングバスケットにボールを入れて運びました。
『頭はすべる、難しい～』

4・5
時限目

ガーナの給食



今日は学年末の日、明日からは夏休みです。家からお弁当を持ってきて、みんなで一緒に朝ごはんを食べます。
『何を食べるの？』

③給食メニューを黒板に貼る。

- ・どの日のメニューにするかを生徒が選ぶ。何を代表にするかを考えさせる。
- ・メニューを英語でどのように表すかを考えさせる。あくまでも子どもたちが考えることがポイント！（参考文献は参考までに！）

④「OK！送りましょう。」

- ・挨拶文、説明文を考える。



⑤ガーナのメニューを受け取る。



- ・メニューからどのようなものかを想像する。発音してみる。絵に描く。
- ・お礼の言葉、質問文を考える。録音する。

⑥お礼と質問文、テープを送る。

報告

『ガーナの理数科教育—青年海外協力隊の活動を通して』

実践教科：国際開発研究会

対象生徒：大学生、大学院生 20名

1. ガーナの概況

1. 1 地理 ガーナで発行している地図
1. 2 政治
1. 3 経済 カカオ、森林、鉱物（金）
GNP 9719百万ドル（一人あたり390ドル）1995年

経済成長率 5.0 %1996年

物価上昇率27.9%1997年

失業率10%

2. ガーナ教育の概況

2. 1 概況
識字率 6 歳35%（都市71%、地方41%）
教育到達度（15歳以上人口）
2000年

2. 2 問題点

学費； 公立：私立 1：40
公立と私立の格差の拡大； 「標準参考テスト」より
小学校6年生の英語と算数の合格率

2. 3 ドナーの援助動向
ドナー全体における日本の位置づけ；
日本の援助は総額において小さい。
教育レベル別；他のドナーが基礎、ノンフォーマル、小学校、非識字教育に特化しているのに対して、まんべんなく援助してきたことが特徴である。

3. 青年海外協力隊の活動

3. 1 概況； 1977年に派遣開始
(40周年を迎える)
理数科教師、家政隊員が50%
草の根無償案件の形成に貢献することに長い歴史を持つ
基礎計算力、基礎学力の低さを指摘している。
奨学金基金の設立；年間10名程度に供与している。

3. 2 問題点；

使用言語の問題 英語での授業、現地語の使用
教員経験の有無
現地教員定着率の低さの改善

4.まとめと今後の課題

●使用言語に関して；

英語は高等教育に進むにつれて必要である
と考えられる。

●教員の経験不足；

授業力、適応力不足が生じる場合もある。
派遣前訓練、現地訓練の取り組みの改善・
強化が必要であると考えられる。

現地教員定着率の低さにどのような解決策を
提案できるか検討の余地がある。



参考文献

- ・世界白地図 作業帳 搭文社
- ・藤田裕子・ナヴィインター・ナショナル編著『英語で作る和食』 ナツメ社
- ・<http://genkienglish.net/schoollunchproject.htm>
- ・JICA 『ガーナ教育分野協力評価 最終報告書』(2004)
- ・Ivan Addae-Mensah *Education in Ghana A Tool for Social Mobility or Social Stratification?* (Ghana Academy of Arts and Science 2000)